

令和4年度第3回加東市商工業振興協議会 次第

日 時 令和5年2月14日（火）

午後1時30分～

場 所 加東市商工会2階小会議室

1 開 会

2 報告事項

- ・令和4年度業界研究セミナー事業実績報告（資料1）

- ・福田小学校プログラミング教育視察報告（資料2）

3 協議事項

- ・Kato Digital Campus（KDC）について（資料3）

- ・大学と連携した企業や地域の課題解決について（資料4）

4 その他

5 閉 会

令和4年度業界研究セミナー事業実績

< 参加学生実績 >

参加学生	65	参加企業	14
------	----	------	----

卒業年度別		文理		学校別	
2024年卒	60	文系	45	大学院	8
2025年卒	4	理系	17	大学	56
2026年卒	1	その他	3	専門学校	1

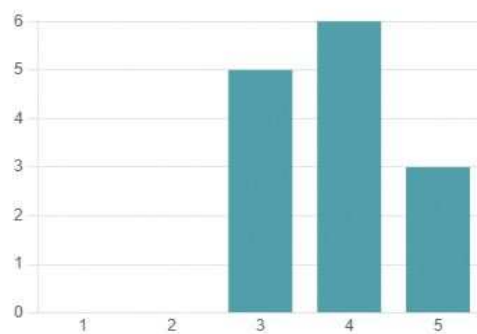
< 参加企業アンケート結果 >

1. 本日のハイブリッド業界セミナーはいかがでしたか。

[詳細](#)

3.86

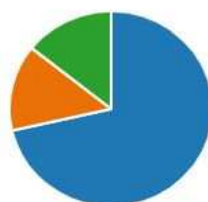
平均評価



2. もし同様のイベントが開催されるとしたら、次回はどちらに参加したいと思われますか。

[詳細](#)

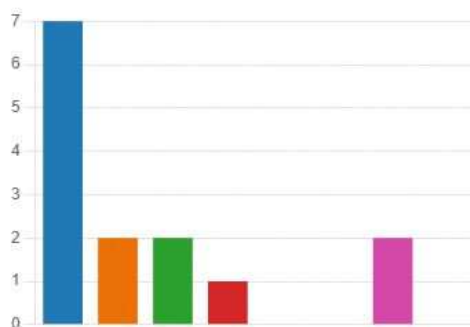
対面式のイベントに参加したい	10
オンラインでのイベントに参加したい	2
その他	2



3. 人材確保施策として、有効と思われる方法をお聞かせください。

[詳細](#)

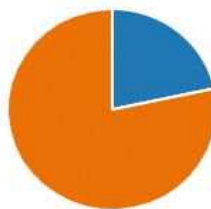
インターンシップ	7
職場見学会	2
合同の企業説明会（加東市内）	2
合同の企業説明会（加東市外）	1
大学内での説明会に参加	0
オンライン上での面接会	0
オンライン上での企業説明会	2
その他	0



<参加学生アンケート結果>

1. 本日は対面／オンラインのどちらで参加しましたか？

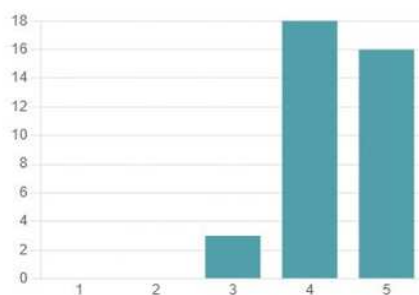
[詳細](#)



2. 本日のハイブリッド業界セミナーの満足度を教えてください。

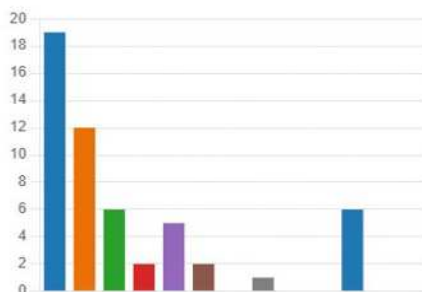
[詳細](#)

4.35
平均評価



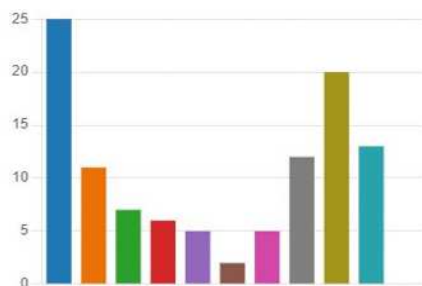
3. 本日のハイブリッド業界セミナーは何で知りましたか。（複数回答可）

[詳細](#)



4. 就活の企業選びは何を重視しますか？（上位3つ）

[詳細](#)



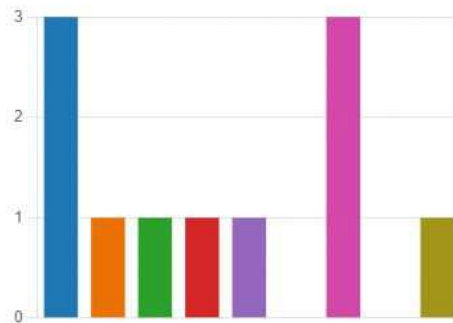
5. 対面参加の方にご質問です。参加の開催場所（加古川市内）は参加しやすかったですか？

[詳細](#)



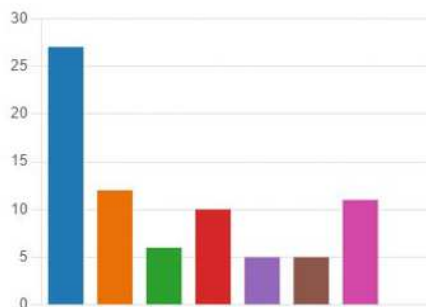
6. 質問5で「いいえ」と回答した方にお聞きします。参加しやすい場所はどこですか？

[詳細](#)



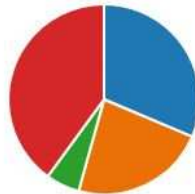
7. どのような就職関連イベントに参加したいですか？（複数回答可）

[詳細](#)



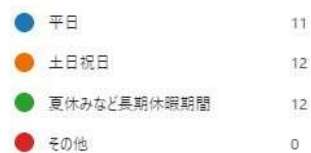
8. 上記で選択したイベントに参加する場合は、いつ頃が参加しやすいですか？①

[詳細](#)



9. 上記で選択したイベントに参加する場合は、いつ頃が参加しやすいですか？②

[詳細](#)



福田小学校プログラミング教育視察報告

1 視察日

令和 5 年 1 月 2 5 日（水）

2 視察内容

小学校 4 年生の 1 時限目の授業を見学

2020（令和 2）年度から小学校でのプログラミング教育が必修化。

今後数十年で、半数近くの仕事が自動化されるともいわれており、社会の変化に対応していく必要がある。子どもたちがこれからの社会で生きていくために、コンピュータの動く仕組みを知って、活用することが求められる。

【プログラミング教育のねらい】

～文部科学省「小学校プログラミング教育の手引」より～

① 「プログラミング的思考」を育む

○プログラミング的思考とは

自分が意図する一連の活動を実現するため、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを論理的に考えていく力

- ② ・プログラムの動きやよさ、情報社会がコンピュータをはじめとする情報技術によって支えられていることなどに気付く
・身近な問題の解決に主体的に取り組む態度やコンピュータ等を上手に活用してよりよい社会を築いていこうとする態度などを育む
- ③ 各教科等の内容を指導する中で実施する場合には、教科等での学びをより確実なものとする

【学習風景】



3 参加者

会長、副会長、事務局 1 名

Kato Digital Campus (KDC) 構想の提案

(かとう でじたる きゃんぱす)

～加東市商工業の活性化のために～

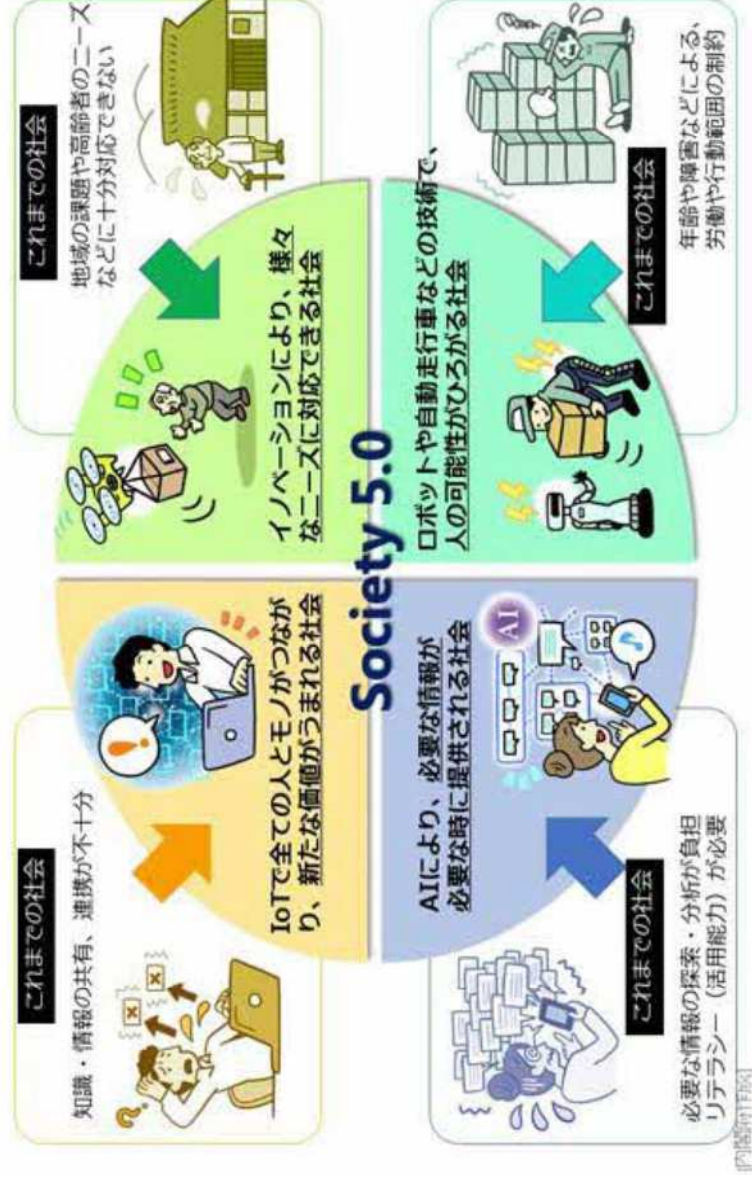
加東市商工業振興協議会

Society 5.0

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）.

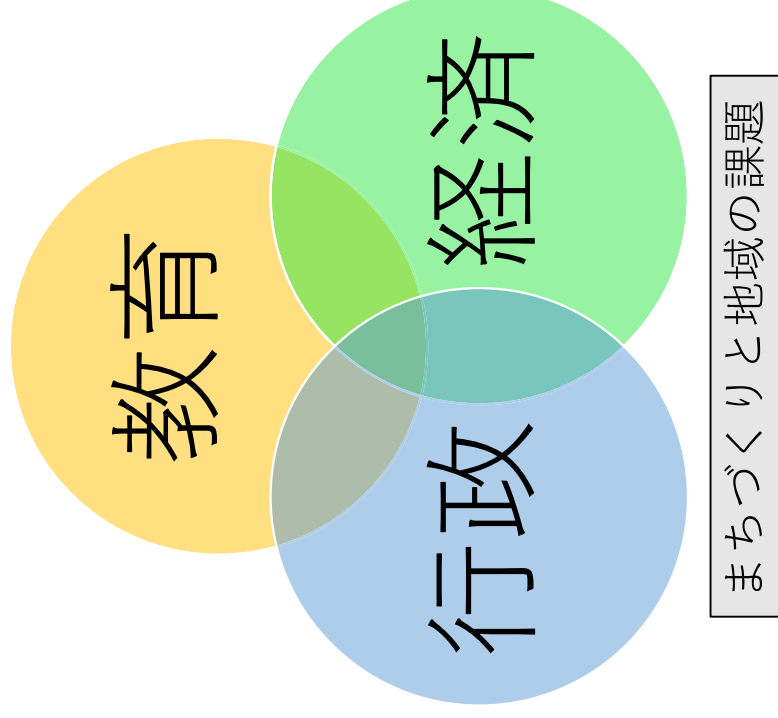
内閣府

1. デジタル活用に関する国の動き
 - ・ Society 5.0
 - ・ 教育，経済，行政の視点
 - ・ デジタル田園都市
2. 加東市の状況
 - ・ 人口予測
 - ・ 産業
 - ・ 農業
 - ・ まちづくりの方向性
3. Kato Digital Campus
 - ・ 全世代向け学びと実践の場
 - ・ 地元の資源の活用
4. まとめ



出典：内閣府
https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/

Society 5.0実現のための国の方向性



教育

自然科学のみならず人文・社会科学も含めた多様な「知」の創造と、
「総合知」が現存の社会全体を再設計する

分野横断的な学び
STEAM教育



STEMIに加え、問いを立て、デザインする力を軸にした、
芸術、文化、生活、経済、法律、政治、倫理観等を含めた広い範囲として“A”を定義
各教科等での学習を実社会での問題発見・解決に活かしていくための教科等横断的な学習の推進が必要。

(出典)「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」(令和3年6月18日)

経済



出典



地域DX推進ラボについて

令和4年11月
経済産業省 情報技術利用政策課

行政

自治体DX推進計画等の概要

自治体DX推進計画の趣旨

- 『デジタル・ガバメント実行計画』（R2.12）に掲げられた各施策のうち、自治体が重点的に取り組むべき事項や国による支援策等を取りまとめ、令和2年12月に計画を策定。
- その後、『骨太の方針2022』において「自治体DX計画改定により、国の取組と歩調を合わせた地方自治体におけるデジタル化の取組を推進する」とされたことを受け、令和4年9月、『デジタル社会の実現に向けた重点計画』『デジタル田園都市国家構想基本方針』（令和4年6月閣議決定）において国が掲げる理念や支援策等を盛り込む改定を実施。

自治体DX推進計画（2022.9.2改定）

■自治体におけるDXの推進体制の構築

- ① 組織体制の整備（全庁的・横断的な推進体制）
- ② デジタル人材の確保・育成
- ③ 計画的な取組み（スケジュール策定等）
- ④ 都道府県による市区町村支援

■重点取組事項（※）自治体の業務システムの改革

- ① 自治体情報システムの標準化・共通化
 - ・2025年度までに基幹系20業務システムを標準業務システムへ移行
- ② マイナポータルサービスの普及促進
 - ・2022年度末までに殆どの住民が保有することを目指し申請・交付促進等
- ③ 行政手続のオンライン化
 - ・住民に身近な31手続をマイナポータルでオンライン手続可能に
- ④ AI・RPAの利用推進、⑤ テレワークの推進
 - ・②、③による業務見直しなどに併せ導入・活用を推進
- ⑥ セキュリティ対策の徹底

■自治体DXの取組とあわせて取り組むべき事項

- ① デジタル田園都市国家構想の実現に向けたデジタル実装の取組の推進・地域社会のデジタル化
- ② デジタルバイド対策
- ③ デジタル原則に基づく条例等の規制の点検・見直し

自治体DX推進手順書（2022.9.2一部改定）

■自治体DX全体手順書（2022.9.2改定）

- ・DXを推進に必要なと想定される一連の手順を0～3ステップで整理
- ステップ0：認識共有・機運醸成
- ステップ1：全体方針の決定
- ステップ2：推進体制の整備
- ステップ3：DXの取組みの実行

■自治体情報システムの標準化・共通化に係る手順書

- ・自治体情報システムの標準化・共通化の意義、効果や、自治体における作業手順等を示すもの

■自治体の行政手続のオンライン化に係る手順書（2022.9.2改定）

- ・自治体の行政手続のオンライン化の取組み方針や、自治体における作業手順等を示すもの

■参考事例集

- ・DXの認識共有・機運醸成、推進体制の整備、個別のDXの取組み等について、先行する自治体の事例を集めたもの

地域社会のデジタル化に係る参考事例集（2022.9.2改定）

- これから事業に取り組む団体や個人の参考となるよう、各団体の事業概要を写真やイラストとともにまとめたもの。令和4年9月、取組に至った経緯・課題意識、活用した国等の支援制度等を盛り込むバージョンアップを実施。

デジタル田園都市国家構想総合戦略の全体像



出典：内閣官房 デジタル田園都市国家構想総合戦略（2023年度～2027年度）

データ連携基盤/都市OSの必要性とデジ田交付金での整備要件を踏まえた
本市でのデータ連携基盤/都市OSの整備・改修事業の特徴について

都市OSの必要性 (国スマートシティガイドブックより)

都市OSは、データの効率的な収集・管理や分野間/都市間での相互連携を可能とするシステム的な共通の土台

- ・新規のサービスを低コストで早く構築可能に
- ・都市間連携により、マーケット規模拡大
- ・分野間連携により、新たなサービスの創出や既存サービスの深化

■都市OSの導入メリット：サイロ型システムからの脱却



デジタル交付金での整備要件（国庫集要項より）

TYPE2/3 共通要件 (詳細③)

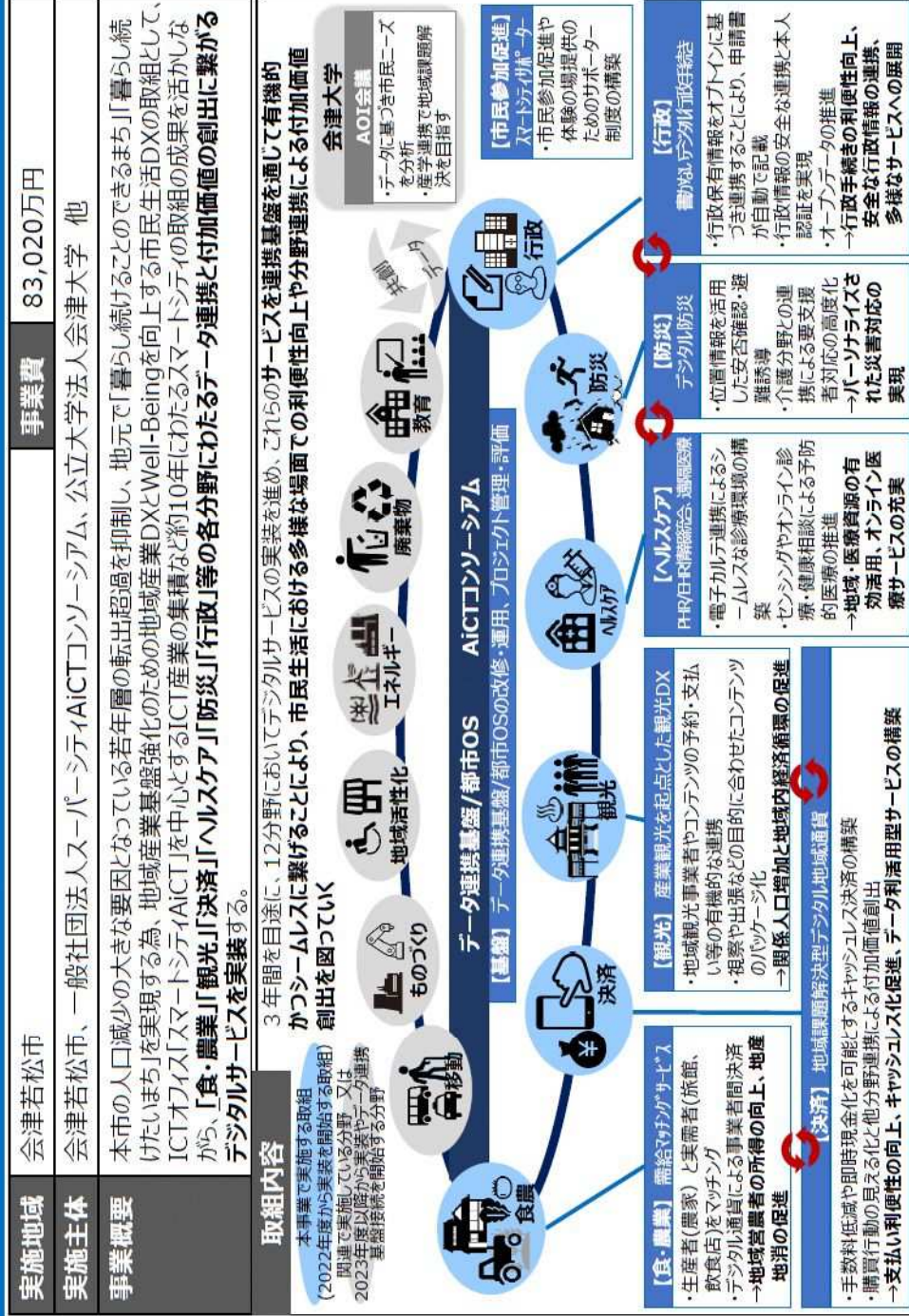
- データ連携基盤の構築及び相互運用性の確保
- ✓ オープンなデータ連携基盤の構築・運用を行うものであること

- ① **デジタル庁の開発・提供するプロカー機能を採用するものであること**
但し、同様の機能を有するプロカー機能を開発済みの場合は、次のいずれかの要件を満たすことを条件に、その活用を進めることで差し支えないものとする。
 - a. 当該プロカー機能とアプリケーション間、及びアプリケーション同士間のいずれにおいてもデータ連携が可能にする**オープンAPIを提供するものであること**と（データ形式についても明記されていること）
 - b. アプリケーション同士におけるデータ連携を可能とする**オープンAPIを通じ、特定の地域でのデータ連携基盤間のデータ連携を実現するものであること**
- ② **パブリッククラウド上、オープンソースによるデータ連携基盤を構築するものであること**
- ③ 内閣府「スマートシティ/リアルエンス・アーキテクチャ」を遵守するものであること
- ④ データ連携基盤自体が**サステイナブルに提供されるための構築・運用計画（長期収支を含む）**が明らかであること（※）。

本市でのデータ連携基盤/都市OS整備・改修の特徴

- ★国では左図のようにセンサやカメラなどのデータを情報連携する想定としているが、本市においては、より個人にあった（パーソナライズ）サービス提供を目指して、本人同意（オプトイン）に基づくパーソナルデータの連携を目指していくことから、**オプトイン機能やパーソナルデータ連携機能、共通IP管理機能を本市の特徴的な機能として付加していく。**

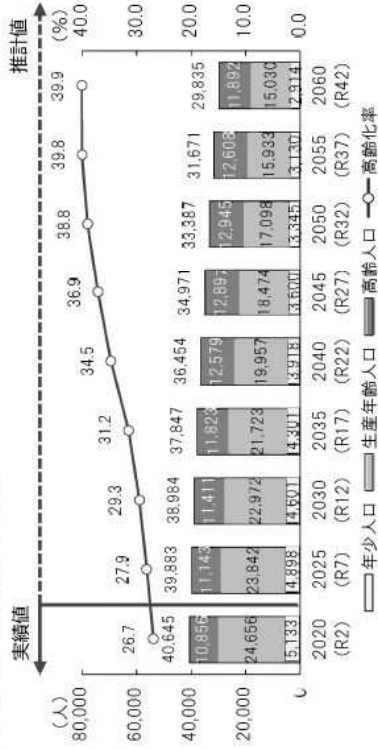
事業概要【複数分野データ連携の促進による共助型スマートシティ推進事業】 5



出典：会津若松市「複数分野データ連携の促進による共助型スマートシティ推進事業」(2022)

加東市の状況（人口・産業）

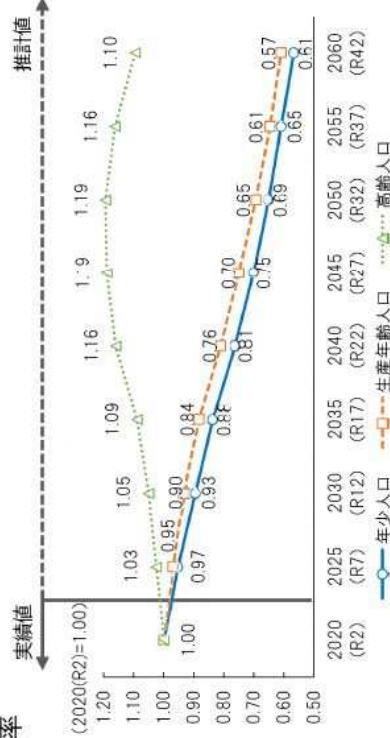
■総人口及び年齢3区分別人口の推計



出典：加東市人口ビジョン（令和4年度改訂版）

※端数処理の関係上、総人口と一致しない場合があります。

■人口の増加率



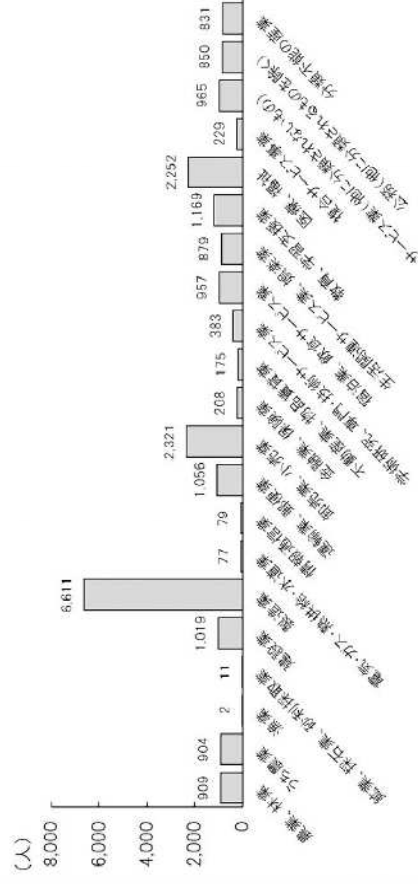
【推計方法の考え方】

- 日本人口と外国人口を分けて推計しています。
- 日本人口は、社人研公表の生残率と国勢調査に基づく純移動率を採用し、合計特殊出生率は2020 (R2) 年時点で1.72、それ以降は2040 (R22) 年で社人研公表値に収束する形で推計しています。
- 外国人口は、2020 (R2) 年（国勢調査）時点の人口構造・規模程度で固定しています。

イ 陸業大分類別就業状況

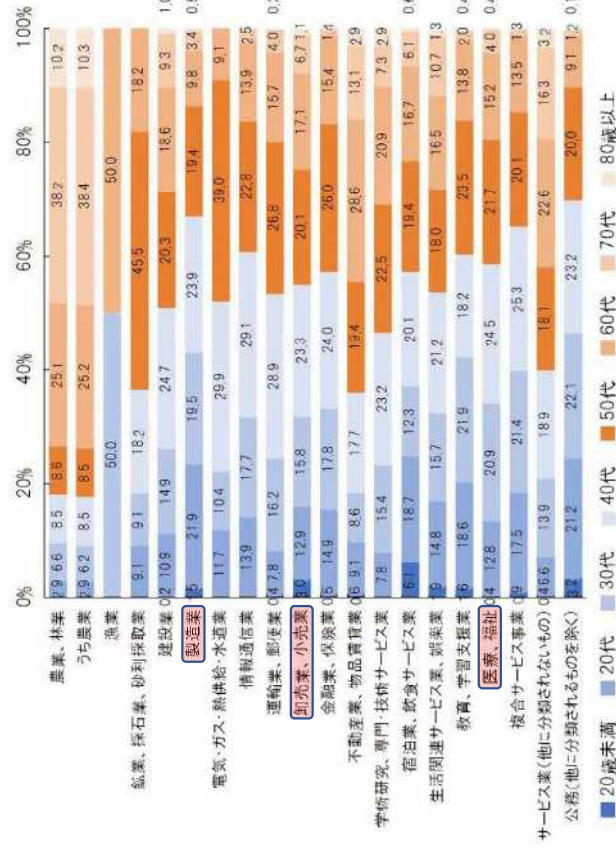
産業大分類別の就業状況を見ると、製造業が6,611人で最も多く、次いで卸売業、小売業が2,321人、医療、福祉が2,252人と続いています。各産業の年齢別割合をみると、製造業や複合サービス業、情報通信業、教育、学習支援業において40代以下の占める割合が他の産業と比べて高くなっている一方、農業は60代以上が約7割を占めていることがわかります。

■産業大分類別の就業者数（2020（R2）年）



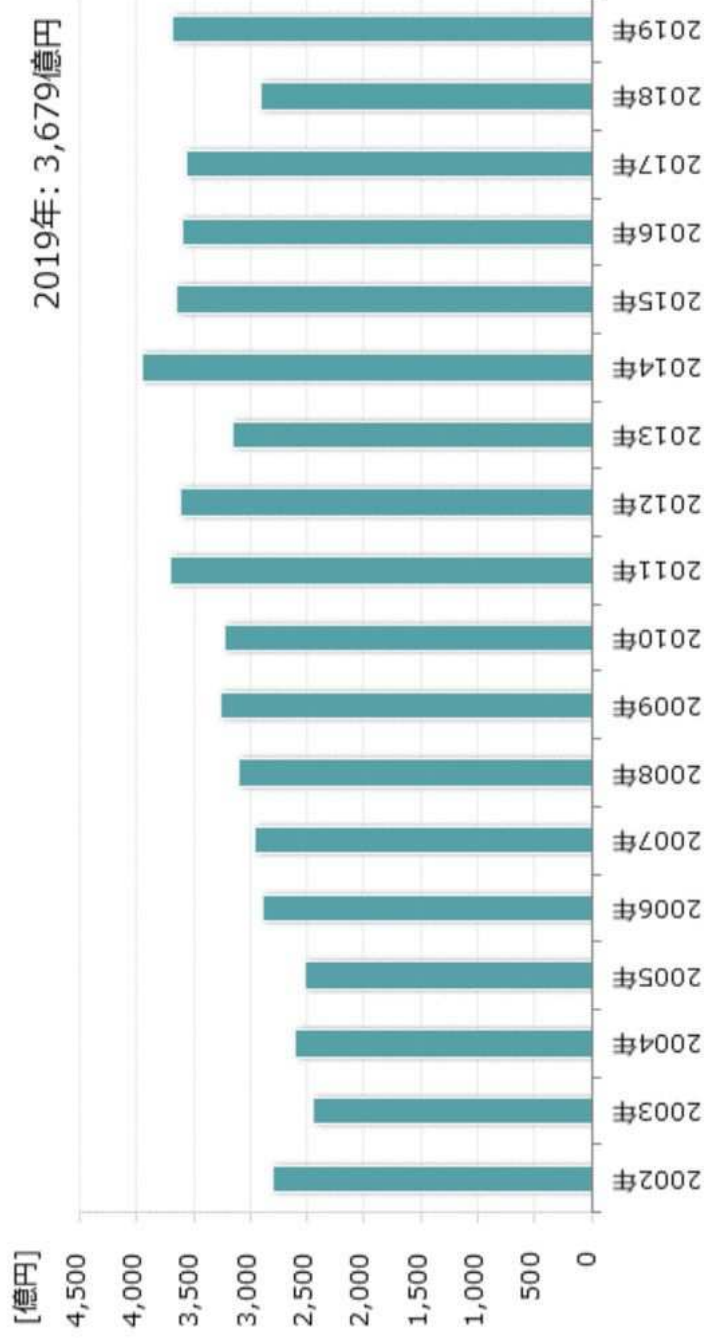
資料：総務省「国勢調査」

■産業大分類別就業者数の年齢別割合（2020（R2）年）

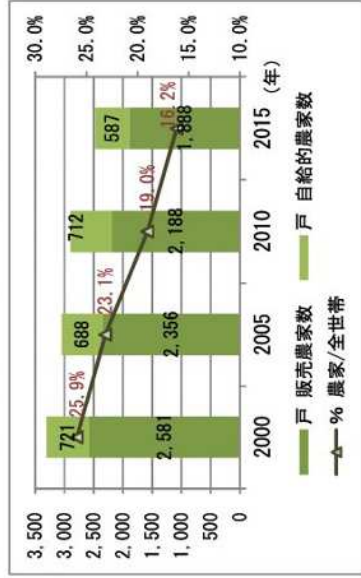


資料：総務省「国勢調査」

加東市(兵庫県)の製造品出荷額等の推移



◇農家数と全世帯に対する農家の割合の推移

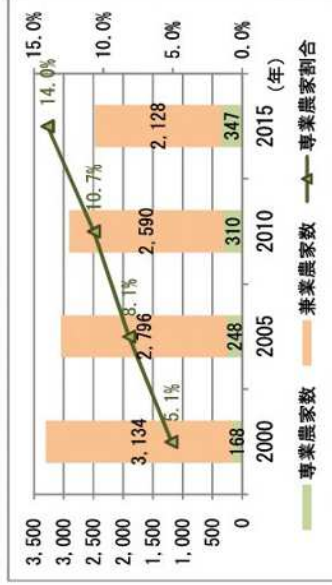


【図 2-2-7 農家数と全世帯に対する農家の割合の推移

出典：農林業センサス】

全国的な傾向に漏れず、本市も年々農家数が減少し、20 年前には全世帯の約 26%であった農家の割合も、16%程度にまで減少しています。

◇専業農家と兼業農家の状況



【図 2-2-8 専業農家と兼業農家の状況 出典：農林業センサス】

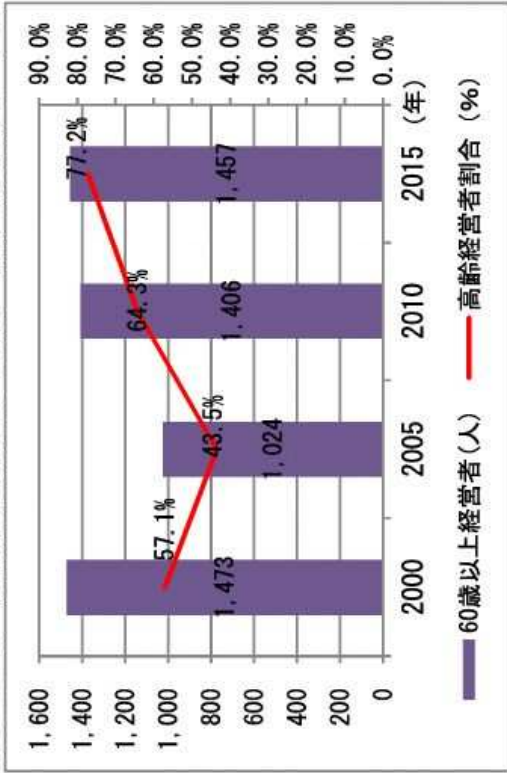
兼業農家は減少する一方で、専業農家が増加していますが、これは、退職後に主業が農業となった農家の増加に起因するものと考えられ、一概に好ましい傾向とは捉えられません。むしろ団塊の世代が後期高齢期を迎えると、一気に地域農業の担い手を失う恐れが高いため、組織的な経営体の育成などを進める必要があります。

出典：加東市地域農業活性化ビジョン（2018（平成30）年度～2027（平成39）年度）

◇農業経営者高齢化の状況

年度	2000	2005	2010	2015
60 歳以上経営者(人)	1,473	1,024	1,406	1,457
高齢経営者割合 (%)	57.1%	43.5%	64.3%	77.2%
従事者平均年齢 (歳)	52.8	66.6	68.8	67.9

【表 2-2-③】 農業経営者高齢化の状況 出典：農林業センサス



【図 2-2-9】 農業経営者高齢化の状況 出典：農林業センサス

出典：加東市地域農業活性化ビジョン（2018（平成30）年度～2027（平成39）年度）

農業経営者の高齢化の状況については、60 歳以上の高齢経営者の割合、農業従事者の平均年齢はいずれも上昇を続けており、特に、農業従事者の平均年齢は、65 歳を超え 70 歳に達しようとしています。農業者の高齢化は、本市においても極めて深刻な段階を迎えています。

アンケート結果では、回答者の 2017（平成 29）年 4 月 1 日現在の年齢が、60 歳代 39.6%、70 歳以上 35.2%となり、60 歳以上が全体の 74.8%となっています。

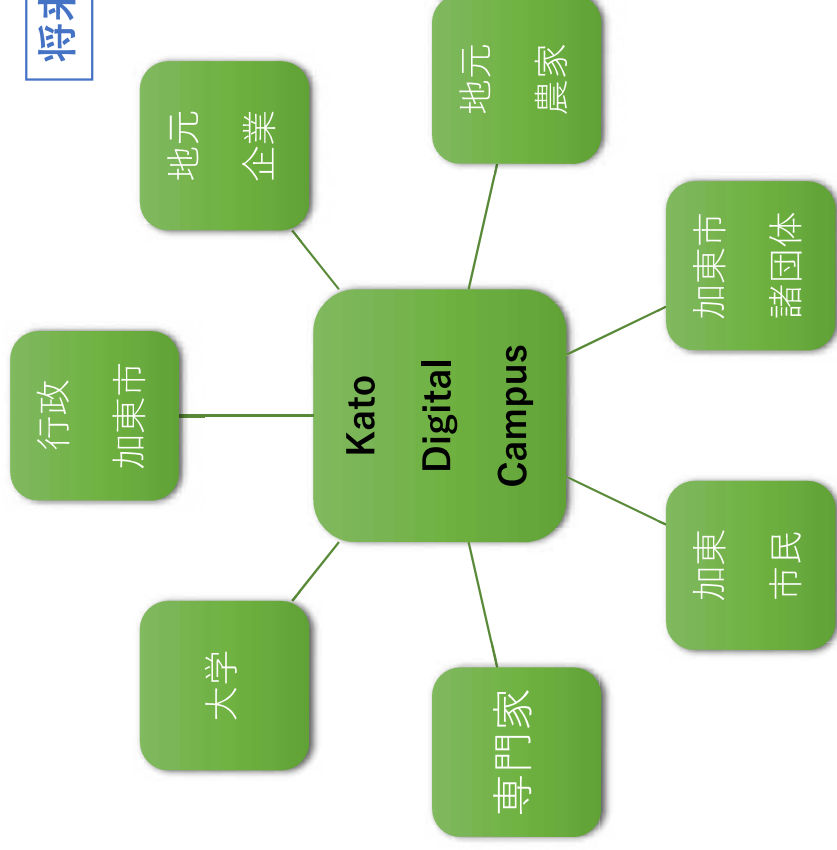
加東市のまちづくりの方向性

市民や地域、事業者などと行政がそれぞれの役割を担い、連携・協力して取り組む「協働」を基本に

1. 加東の未来を創造する「ひとづくり」
2. 安心で健やかな「くらしづくり」
3. 安全快適でにぎわいのある「まちづくり」
4. 効率的かつ効果的で持続可能な「行政経営」

第2次加東市総合計画より
2018（平成30）年度～2027（平成39）年度

将来、皆が集まって考える場が必要



デジタルによる「協働」の環境を構築

Kato Digital Campus（全世代向け学びと実践の場）の特徴

デジタル関連技術を習得とそれによる**地域の課題**を解決する場の提供＝（ひとづくり）





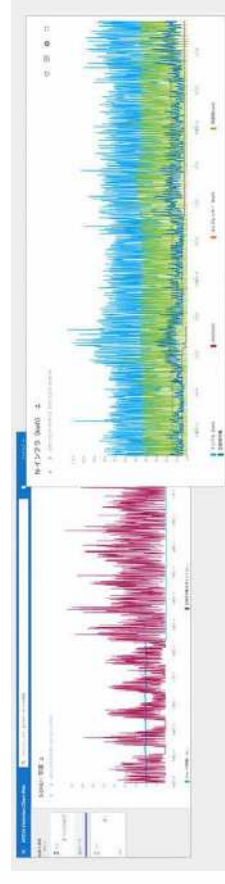
カメラ検査システム理解モデル（プラレール）



西脇工業高校生の学外授業（電気制御）



カメラ検査実装（工場内）



工場インフラ設備センサーとデータログ



人協働型ロボット

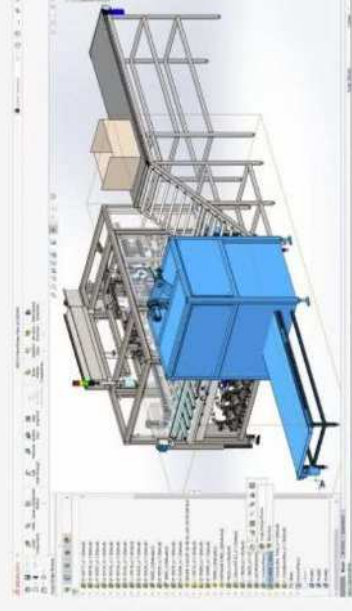


無人搬送車



3Dプリンター

SOLIDWORKS® 2022の新機能 — 設計から製造まで



3D CAD

活動の流れ

2022 年 10 月 30 日 (日) 13:00 ~ 16:00
加東市やしろ国際学習塾 参加費 1,500 円 (1人)
対象 小学生 中学生 高校生 社会人 誰でも参加可
定員 100 名 (先着)
参加費 無料
申込期 10 月 25 日 (金) まで

ロボット
プログラミング体験会
(プログラミング)

10月30日(日) 13:00~16:00
加東市やしろ国際学習塾
参加費 1,500 円 (1人)
対象 小学生 中学生 高校生 社会人 誰でも参加可
定員 100 名 (先着)
参加費 無料
申込期 10 月 25 日 (金) まで

①10月8日 (土) ・ ②10月22日 (土)
③11月5日 (土) ・ ④11月20日 (日)

ロボット
製作教室
+
プログラミング

11/12、11/19、11/20、12/3

⑤

試走会 (土、日)

⑥

北播磨稲刈りロボットコンテスト 12/11 (日)

⑦

準備 12/10

参加無料

フォロワー
アップ

こいのぼりクラブ

PCN 北はりまの IchigoJam 定期教室の開催予定

7/18

参加+材料費：1000円/1回[月1回]

また 北はりま 稲刈りロボット コンテスト

手作りロボットでミッションに挑戦！

12月11日⑩ 10:00~16:00

加東市やしろ国際学習塾 2階・中会議室 観覧無料

主催：北はりま稲刈りロボットコンテスト実行委員会

(KDC実現のために必要なこと)

- ・組織づくり（**産官学金が一体**となった支援）
他の自治体の事例調査研究
- ・持続的成長のためのビジネスモデルやマネジメント手法
国のフレームワークの活用
スマートシティリファレンスアーキテクチャ
- ・**スモールスタート**
北播磨ロボコン
- ・段階を踏みながらのスマールゴールと最終ゴールのKGIとKPI設定
市民や関係者の知恵
- ・外部専門家とのネットワークやコンサルからの支援
- ・資金調達（当初は補助金や地元企業の協賛金など）
- ・キャンパスの場所の確保

大学と連携した企業や地域の課題解決について

授業科目名	教養ゼミ（STEAM教育グループB）後期金曜2時間目	
学習目標、到達目標、ねらい	第1～12回は、STEAM学習を通して、学習者として学びのポイントを体感するとともに、アウトプットの質を高める。 第13～15回は、省察を通して、STEAM教育の指導者としての視点を獲得する。	
授業の内容	第1～12回は、地元の加東市商工観光課と連携し、「STEAMで変えよう加東！」をテーマに取り組む。都市に比べ地方の事業者は情報発信、事業者間連携、地域通貨、商品配送サービス、ダイバーシティ対応などの面が遅れているため、STEAMの力で地域を活性化するための方策を探究・創造する。フィールドワークも行い、デジタル技術などを用いて、加東市の商工観光業の課題解決にチャレンジする。 第13～15回は、12回までのSTEAM学習を省察し、STEAM教育のデザインや企業や地域との連携、ファシリテーションの在り方等について考察する。	
授 業 計 画	第 1 回 10/6	探究し知る学び1（課題設定） 加東市側から市内の商工観光業の現状や課題について情報提供をしてもらい、個人またはチームで探究するテーマを設定する。
	第 2 回 10/13	探究し知る学び2（情報収集） 設定したテーマについて、国内外の地域事例について情報収集する。
	第 3 回 10/20	探究し知る学び3（整理・分析） 収集した情報を整理・分析する。
	第 4 回 10/27	探究し知る学び4（まとめ） 情報をまとめて発表資料をつくる。
	第 5 回 11/10	探究し知る学び5（表現） まとめた結果を加東市にプレゼンし、意見をもらう。
	第 6 回 (11/17)	発想し創る学び1（共感） ユーザを設定し、ユーザが真に求めているものを理解する
	第 7 回 (11/24)	発想し創る学び2（問題定義） ユーザのニーズを明確にする。
	第 8 回 12/1	発想し創る学び3（発想1） ユーザのニーズをかなえるため多角的なアイデア出しをする。
	第 9 回 12/8	発想し創る学び4（発想2） アイデアを実現する方法を検討する。
	第10回 12/15	発想し創る学び5（プロトタイピング1） 試作品を作る。
	第11回 12/22	発想し創る学び6（プロトタイピング2） 試作品を作り、プレゼン資料を作る。
	第12回 1/12	発想し創る学び7（テスト） 加東市主催のコンペでプレゼンし、評価をしてもらう。
	第13回 1/19	STEAM学習についての省察 学習者の立場でSTEAM学習の取り組みを振り返り、自己評価する。
	第14回 1/26	STEAM教育の在り方の考察 指導者の立場でSTEAM学習のデザイン、企業連携等を考察する。
	第15回 2/2	学びの統合 これまでの学修を踏まえて今後のSTEAM教育を展望する。